

事務事業名	「紙芝居がやってくる」実施事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課	
施策名	21	生涯学習の推進				所属係	図書館班	課長名	野本 立一	
基本事業名	34	人材育成				担当者名	末永 舞	電話番号 (内線)	096-242-5555	
予算科目	会計 01	款 10	項 05	目 08	事業	法令根拠	図書館法			
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 18 年度 ~) ↳ (年度 ~ 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容)屋外で昔ながらの紙芝居公演を春休みの期間中と秋の読書週間で計2回実施する。 (事業の内容)ボランティアの方に依頼し、市民や図書館利用者へ公演の周知をする。ボランティアの方と打ち合わせをし、演目・当日の進行などを打ち合わせ、実施する。 (予算の内訳)報酬費、謝金						総投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	2
							事業費計 (A)	2		
							正職員従事人数	1		
							延べ業務時間	2		
							人件費計 (B)	8		
						トータルコスト(A)+(B)		10		

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・10月の読書週間期間中と3月の春休み中にボランティアの方に来てもらい、紙芝居の公演をした。時間は各1時間ずつで、両日とも天気が良かったため、図書館周辺の屋外で実施した。

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・18年度と同じ

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・図書館利用者の小学生以下の子どもとその保護者。

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・昔ながらの移動紙芝居の雰囲気を作り、いつもとは違った環境・方法で紙芝居の公演を行うことで、子どもたちにはなしの楽しさを知ってもらう。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・おはなしを聞く喜びを学び、心を育てる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 開催回数	回
イ	
ウ	

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 開催日の図書館来館者数	人
イ	
ウ	

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 参加者数	人
イ	
ウ	

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称	単位
ア 紙芝居を楽しかったと感じた参加者の人数	人
イ	
ウ	

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	事業費							
	財源内訳							
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円						
	事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0
	正職員従事人数	人			2	2	2	2
	延べ業務時間	時間			8	8	8	8
人件費								
人件費計 (B)	千円	0	0	32	32	32	32	32
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	32	32	32	32	32
活動指標	ア 回			2	2	2	2	2
対象指標	ア 人							
成果指標	ア 人			110	120	120	120	120
上位成果指標	ア 人				100	100	100	100

事務事業名	「紙芝居がやってくる」実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
・平成18年度より、読書週間および春休み中の図書館行事として開始した。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
・変化は見られない。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・楽しかった、懐かしかったという声を聞いた。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・意図の昔ながらの移動紙芝居の雰囲気を作り、いつもとは違った環境・方法で紙芝居の公演を行うことで、子どもたちにおはなしの楽しさを知ってもらうということは結果、子どもたちのおはなしを聞く喜びを学び、心を育てることに結びついている。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・合志市の将来を担う子どもたちの心を育てるという重要な役割があり、子育て日本一の目標にも合う事業であるため、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・対象、意図とも現状で定説である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・紙芝居開催の周知の仕方をもっと徹底すれば参加者数を増やすことができると考える。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・「春休みの行事は何かないのか」「読書週間中はどんなことをやるのか」という利用者からの声が寄せられるため、廃止・休止した場合他の子どもの心を養うような事業を考える必要がある。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ・紙芝居以外にもお話の楽しさを伝える方法はある。 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・市内にはおはなしボランティアの方があちこちで紙芝居やおはなしをしている。連携は可能。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・1回の公演につき1000円の図書カードを謝金として渡しているだけなので、削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・実用用具の準備やおはなし自体はボランティアの方にさせていただくので、正職員はほとんど手をかけていない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・低予算で多くの子どもたちにお話をしている。公正である。

合志市

事務事業名	「紙芝居がやってくる」実施事業	所属部	教育委員会	所属課	生涯学習課
-------	-----------------	-----	-------	-----	-------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

有効性については・・市内にはおはなしボランティアの方があちこちで紙芝居やおはなしをしている。連携は可能。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上		○	
	維持			×
	低下		×	×

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項